

令和2年8月3日

## 京口門だより NO.82

中国地方は7月末にようやく梅雨明けとなりました。今年は2ヶ月ちかく梅雨が続き、平年の2倍ほどの降雨量であったと言われています。各地で豪雨の被害がおき、コロナ禍とともに悩ましさが続きます。暦のうえでは8月7日は立秋となりとまどいます。「洪水の林の星斗秋に入る」(飯田蛇笏)

前回のこのたよりでは、漢方は感染症を免疫力で克服するという話をしました。漢方薬の免疫活性化作用は感染症ばかりでなく、各種の癌の治療でも有効な力があることが分ってきています。実験室や実験動物において、いくつかの漢方薬は実験動物に発生させた癌に対し免疫系を活性化させて縮小させることが証明されています。また漢方薬は人のリンパ球に働きかけて腫瘍細胞障害作用をもたらし、また腫瘍壊死因子を活性化させることも分ってきました。さらにある種の癌に対して現代医学の抗がん剤と漢方薬を併用すると一層効果が増すということも明らかにされています。このように実験室での漢方薬の抗腫瘍作用はつぎつぎと明らかにされてきました。

ただ実際に人の上で癌にどのように効果があるかは、いろいろな要素が関わっていてなかなか証明することが難しいのですが、わが診療所での経験では、

膀胱癌が出来ては治療してよくなり、しばらくするとまた再発するという女性の方がおられました。漢方薬と鍼治療を続けて数年で全く癌の再発が起こらなくなりました。

また、大腸癌の発見が遅れ、肝臓に転移している高齢の女性の方がおられました。外科で始めの大腸癌は手術をして取り除きましたが、肝臓への転移がありましたので、抗がん剤の投与をおこなうことになりました。しかし外科の主治医からはあと数ヶ月の寿命ですよと告知され、何とか少しでも漢方治療を求めてこられました。この方も幸い漢方薬の効果があり、抗がん剤の治療と併用しながらその後 10 年以上元気に過ごされました。

これもまだ若い主婦の方でしたが、肝硬変という慢性の肝臓病から肝臓がんを発症し、小さい子供を抱えながら何とか少しでも元気でいたいということで、漢方治療を求めてこられました。鍼治療も併用しながらこの方も 10 年以上元気にすごされ、子供さんも大きくなられた後に亡くなりました。

漢方治療がいつもうまくゆくとは限りませんが、このように癌にかかっても寿命を長らえる効果があるということです。

